

新医薬品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考	
1	399	内用薬	ソキンヴィカプセル50mg	50mg1カプセル	91,796.40	30カプセル/ボトル [乾燥剤入り]	アンジェス	ロナファルニブ	ハッチンソン・ギルフォード・プロジェクト症候群及びプロセシグ不全性のプロジェクト・ラミノバチー	通常、ロナファルニブとして開始用量115mg/m ² (体表面積) を1日2回、朝夕の食事中又は食直後に経口投与し、4カ月後に維持用量150mg/m ² (体表面積) を1日2回、朝夕の食事中又は食直後に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。	劇、処方	R6.1.18	新有効成分	
			ソキンヴィカプセル75mg	75mg1カプセル	136,544.00	30カプセル/ボトル [乾燥剤入り]								
2	399	内用薬	ボイデヤ錠50mg	50mg1錠	2,259.20	14錠 [14錠 (PTP) ×1]	アレクシオンファーマ	ダニコバン	発作性夜間ヘモグロビン尿症	通常、成人には、補体 (C5) 阻害剤との併用において、ダニコバンとして1回150mgを1日3回食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、1回200mgまで増量することができる。	劇、処方	R6.1.18	新有効成分	
3	429	内用薬	ターゼナカプセル0.1mg	0.1mg1カプセル	3,920.70	10カプセル [10カプセル (プリスター) ×1]	ファイザー	タラソバリブトシル酸塩	BRCA遺伝子変異陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌	〈BRCA遺伝子変異陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌〉 エンザルタミドとの併用において、通常、成人にはタラソバリブとして1日1回0.5mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。 〈がん化学療法歴のあるBRCA遺伝子変異陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌〉 通常、成人にはタラソバリブとして1日1回1mgを経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。	劇、処方	R6.1.18	新有効成分	
			ターゼナカプセル0.25mg	0.25mg1カプセル	9,576.00	10カプセル [10カプセル (プリスター) ×1]			①BRCA遺伝子変異陽性の遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺癌 ②がん化学療法歴のあるBRCA遺伝子変異陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌					
			ターゼナカプセル1mg	1mg1カプセル	21,547.10	10カプセル [10カプセル (プリスター) ×1]			がん化学療法歴のあるBRCA遺伝子変異陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌					
4	429	内用薬	ラバリムス顆粒0.2%	0.2%1g	3,010.20	25g [瓶] (脱酸素剤入り)	ノーベルファーマ	シロリムス	下記の難治性脈管腫瘍及び難治性脈管奇形 リンパ管腫 (リンパ管奇形)、リンパ管腫症、ゴーラム病、リンパ管拡張症、血管内皮腫、房状血管腫、静脈奇形、青色ゴムまり様母斑症候群、混合型脈管奇形、クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	通常、シロリムスとして、体表面積が1.0m ² 以上の場合には2mg、0.6m ² 以上1.0m ² 未満の場合には1mgを開始用量とし、1日1回経口投与する。以後は、血中トラフ濃度や患者の状態により投与量を調節するが、1日1回4mgを超えないこと。体表面積が0.6m ² 未満の場合は、月齢に応じて開始用量を下記のとおりとし、1日1回経口投与する。以後は、血中トラフ濃度や患者の状態により投与量を調節するが、下記の最大用量を超えないこと。	劇、処方	R6.1.18	新効能、新用量、剤形追加	

月齢	1日あたり開始用量 (最大1mgまで)	1日あたり最大用量 (最大4mgまで)
3ヵ月未満	0.02mg/kg	0.08mg/kg
3ヵ月以上6ヵ月未満	0.04mg/kg	0.16mg/kg
6ヵ月以上12ヵ月未満	0.06mg/kg	0.24mg/kg
12ヵ月以上	0.08mg/kg	0.32mg/kg

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価 (円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
5	113	注射薬	フィコンバ点滴静注用2mg	2mg1瓶	1,962	2mg×6バイアル	エーザイ	ベランパネル水和物	<p>一時的に経口投与ができない患者における、下記の治療に対するベランパネル経口製剤の代替療法</p> <p>○てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作を含む）</p> <p>○他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法</p>	<p>ベランパネルの経口投与から本剤に切り替える場合： （部分発作（二次性全般化発作を含む）に用いる場合） 【単剤療法】 【併用療法】 通常、成人及び4歳以上の小児にはベランパネル経口投与と同じ1日用量を、1日1回30分以上かけて点滴静脈内投与する。ただし、4歳以上12歳未満の小児への投与時間は90分とする。 〈強直間代発作に用いる場合〉 【併用療法】 通常、成人及び12歳以上の小児にはベランパネル経口投与と同じ1日用量を、1日1回30分以上かけて点滴静脈内投与する。</p> <p>ベランパネルの経口投与に先立ち本剤を投与する場合： （部分発作（二次性全般化発作を含む）に用いる場合） 【単剤療法】 通常、成人及び4歳以上の小児にはベランパネルとして1日1回2mgの投与より開始し、その後2週間以上の間隔を空けて2mgずつ漸増し、維持用量は1日1回4～8mgとし、30分以上かけて点滴静脈内投与する。ただし、4歳以上12歳未満の小児への投与時間は90分とする。 【併用療法】 通常、成人及び12歳以上の小児にはベランパネルとして1日1回2mgの投与より開始し、その後1週間以上の間隔を空けて2mgずつ漸増し、本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回4～8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8～12mgとし、30分以上かけて点滴静脈内投与する。 通常、4歳以上12歳未満の小児にはベランパネルとして1日1回2mgの投与より開始し、その後2週間以上の間隔を空けて2mgずつ漸増し、本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回4～8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8～12mgとし、90分かけて点滴静脈内投与する。 〈強直間代発作に用いる場合〉 【併用療法】 通常、成人及び12歳以上の小児にはベランパネルとして1日1回2mgの投与より開始し、その後1週間以上の間隔を空けて2mgずつ漸増し、本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない場合の維持用量は1日1回8mg、併用する場合の維持用量は1日1回8～12mgとし、30分以上かけて点滴静脈内投与する。</p> <p>ベランパネルの経口投与から本剤に切り替える場合、及びベランパネルの経口投与に先立ち本剤を投与する場合のいずれにおいても、症状により適宜増減できるが、1日最高投与量及び増減方法は以下のとおりとすること。 （部分発作（二次性全般化発作を含む）に用いる場合） 【単剤療法】 成人及び4歳以上の小児には、2週間以上の間隔を空けて2mg以下ずつ適宜増減し、1日最高8mgまでとする。 【併用療法】 成人及び12歳以上の小児には、1週間以上の間隔を空けて2mg以下ずつ適宜増減し、1日最高12mgまでとする。 4歳以上12歳未満の小児には、2週間以上の間隔を空けて2mg以下ずつ適宜増減し、1日最高12mgまでとする。 〈強直間代発作に用いる場合〉 【併用療法】 成人及び12歳以上の小児には、1週間以上の間隔を空けて2mg以下ずつ適宜増減し、1日最高12mgまでとする。</p>	処方	R6.1.18	新投与経路
6	131	注射薬	アイリーア8mg硝子体内注射液114.3mg/mL	8mg0.07mL1瓶	181,763	1バイアル（専用フィルター付き採液針1本添付）	バイエル薬品	アフリベルセプト（遺伝子組換え）	<p>○中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性</p> <p>○糖尿病黄斑浮腫</p>	アフリベルセプト（遺伝子組換え）として8mg（0.07mL）を4週ごとに1回、通常、連続3回（導入期）硝子体内投与するが、症状により投与回数を適宜減じる。その後の維持期においては、通常、16週ごとに1回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、8週以上あけること。	劇、処方、生物	R6.1.18	新剤形医薬品
7	218	注射薬	エブキーザ点滴静注液345mg	345mg2.3mL1瓶	1,409,928	2.3mL× 1 バイアル	Ultragenyx Japan	エビナクマブ（遺伝子組換え）	ホモ接合体家族性高コレステロール血症	通常、エビナクマブ（遺伝子組換え）として15mg/kg を4週に1回、60分以上かけて点滴静注する。	処方、生物	R6.1.18	新有効成分

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価 (円)	包装単位	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	規制等	承認年月日	備考
8	339	注射薬	レプロシジル皮下注用25mg	25mg1瓶	184,552	1バイアル	プリストル・マイヤーズ スクイブ	ルスバテルセプト (遺伝子組換え)	骨髄異形成症候群に伴う貧血	通常、成人にはルスバテルセプト (遺伝子組換え) として1回1.0mg/kgを3週間間隔で皮下投与する。なお、患者の状態により適宜増減するが、1回1.75mg/kgを超えないこと。	劇、処方、生物	R6.1.18	新有効成分
			レプロシジル皮下注用75mg	75mg1瓶	551,000	1バイアル							
9	449	注射薬	イブグリース皮下注250mgオートインジェクター	250mg2mL 1キット	61,520	2mL×1オートインジェクター	日本イーライリリー	レプリキズマブ (遺伝子組換え)	既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎	通常、成人及び12歳以上かつ体重40kg以上の小児には、レプリキズマブ (遺伝子組換え) として初回及び2週後に1回500mg、4週以降、1回250mgを2週間間隔で皮下投与する。 なお、患者の状態に応じて、4週以降、1回250mgを4週間間隔で皮下投与することができる。	劇、処方、生物	R6.1.18	新有効成分
			イブグリース皮下注250mgシリンジ	250mg2mL 1筒	61,520	2mL×1シリンジ							
10	639	注射薬	ヒフデュラ配合皮下注	5.6mL1瓶	604,569	1バイアル	アルジェニクスジャパン	エフカルチギモド アルファ (遺伝子組換え) ・ボレヒアルロニターゼ アルファ (遺伝子組換え)	全身型重症筋無力症 (ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限り)	通常、成人には本剤1回5.6mL (エフカルチギモド アルファ (遺伝子組換え) として1,008mg及びボレヒアルロニターゼ アルファ (遺伝子組換え) として11,200単位) を1週間間隔で4回皮下投与する。これを1サイクルとして、投与を繰り返す。	劇、処方、生物	R6.1.18	新有効成分、新医療用配合剤

・内容についての詳細な情報又は正確な情報は、添付文書等をご参照下さい。

・薬価に関する情報は「官報」でもご確認下さい。

・承認段階の情報につきましては、適宜、日本薬剤師会雑誌の日薬医薬品情報に掲載しておりますのでご参照下さい。

・承認に関する情報は医薬品医療機器総合機構ホームページの新薬の承認に関する情報もご参照下さい。

・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。

・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。